

創建

そうこん

2019・3・25 VOL.53 NO.4 (通巻170号)

巻頭言：浅里和茂・1
 福島建築文化賞受賞：渡邊宏・2
 福島建築文化賞受賞：高橋岳志・3
 歴史意匠研究室の活動・4
 学生の活躍紹介・5
 修士学位論文発表会／卒業研究発表会・6
 教室ニュース・7
 卒業式表彰者／卒業設計・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

東京駅八重洲口DAIMARUの間を抜けて外堀通りを渡り、左手の地下鉄東西線日本橋駅へ向かう途中、呉服橋の交差点を右に曲がると鉄骨骨組のモニュメントがあります。現在は三井住友銀行となっているこの場所には、オフィスビルの嚆矢とも言える昭和28年（1953年）竣工の旧日本相互銀行本店がありました。設計者は前川國男、構造設計が横山不学による地上9階、軒高31mの当時の高層建築は、1階のオープンな空間と8、9階のホールのために軽量化と強さが求められ、SRCではなく純鉄骨造となりました。さらに鉄骨の接合にはボルトやリベットを使用せず、日本初の全溶接接合とする野心的なものでした。建替の際にこの骨組の一部がモニュメントとして残され、きれいなディテールを間近に見ることができます。構造デザインにおける昭和の断片です。

この創建が発行されて数日後には新しい元号が発表され、一か月もすれば平成も終わりを迎えます。そのせいか昨年末あたりから平成を振り返る話題がマスコミを賑わせていました。紅白もユーミンとサザンです。泣きました。松任谷由実の2曲は平成のジブリに使われておなじみですが、どちらも独身「荒井由実」だった昭和48年（1973年）のデビューアルバムと翌年の2ndからです。声と容色の衰えは隠せないけれど、デビューを支えたティンパンアレーをバックに従え、正しい加齢を見せつけてくれました。ユーミンも桑田さんもあの頃はかなり年上と感じていたけれども、今となってはその年の差も誤差範囲、貨物船がソーダ水のなかを通っていた山手のドルフィンも今は窓からマンションや火力発電所の煙突が見えるばかりです。

昭和の高度成長期からバブルを経て平成の現在まで、建築構造工学も様々な発展を見せてきました。現在の東京駅周辺のスカイラインは超高層ビルばかりですが、日本最初のそ

れは昭和43年（1968年）竣工の地上36階、軒高147mの霞が関ビルです。

この超高層ビル建設への挑戦は昭和36年（1961年）に日立製作所製アナログコンピュータSERACが東京大学に導入されてから武藤清先生を中心に本格化します。SERACは地震応答解析専用のコンピュータですが、5質点までしか解析できず、パッチ盤でケーブルを差し替えてのプログラミングでした。今と比べれば低速で非効率なマシンですが、実際の強震記録によりBi-Linearの弾塑性応答解析が可能であるなど画期的なものでした。武藤先生がこの質点系の応答を国際会議で発表した際、アメリカの研究者から「ビルもダンスをするのですね」と賞賛されたそうです。

郷愁・憧憬・

待望・勇躍

教授 浅 里 和 茂

昭和38年（1963年）に建築基準法が改正され高さ制限31mが撤廃されると、霞が関ビルは当初計画の9階から36階へと大きく舵を切ります。翌年退官した武藤先生はこの建設に大きく関わるようになり、その後に武藤構造力学研究所を設立、多くの超高層ビルの構造設計に携わります。その後、霞が関ビルに続けと2年後の昭和45年（1970年）には地上40階、軒高152mの世界貿易センタービル、さらに翌年に47階、軒高169mの京王プラザホテルが竣工すると新宿副都心に超高層ビルが林立していきます。

平成に入ると平成3年（1991年）に48階、軒高241mの東京都第一本庁舎が丹下健三の設計で落成します。武藤先生はこのために肩書きを整理されて都庁の仕事一本で臨み、スーパーストラクチャーによる超高層ビルの代表作となりました。しかし、

平成5年（1993年）には横浜ランドマークタワーが70階、高さ296mで竣工して一位の座を明け渡します。海辺のランドマークタワーでは風荷重が地震力を上回るケースもあり、未だがりの形状とダブルチューブ構造が採用され、風揺れ防止の制振装置も設置されました。しばらく一位を守り続けていましたが、現在は平成26年（2014年）に竣工したあべのハルカスの60階、高さ300mが日本一となりました。

この約20年間の時間は2つのビルの外観形状の違いに現れています。平面の対称性を守り、どっしりとした印象のランドマークタワーとは異なり、北面だけが3段階にセットバックするあべのハルカスには平成7年（1995年）の兵庫県南部地震以降の技術がふんだんに使用されています。下層階のCFTやセットバックの切り替え階を耐震ブレースによるトラス階とする構造デザイン上の工夫をはじめ、2種類の制振ダンパーや倒立振り子を利用した制振装置、高強度材料として590N/mm²級の鋼材や150N/mm²の現場打ちコンクリートなどです。

平成23年（2011年）の東北地方太平洋沖地震を経験し、新しい元号を迎えた先には虎ノ門ヒルズと六本木ヒルズの間に2022年竣工予定で65階、330m、冒頭の呉服橋交差点近くに2027年竣工予定で61階、390mのオフィスビルが計画されています。

超高層建築とともに進化してきた耐震設計ですが、地震の強さだけではなく、長周期地震動やパルス波のように地震の表情にも適した設計が求められるようになってきています。まだまだ、構造技術者の仕事は尽きません。

サザンオールスターズがデビューするとき、今も所属するアミューズの大里洋吉氏は無名であった桑田佳祐のボーカルを聴き、「この声となら心中してもいい」とマネジメントを決めたそうです。人生意気に感ず、そんな仕事をしてみたいものです。

第35回福島県建築文化賞 優秀賞受賞

二本松市城山市民プール

株式会社関・空間設計

非常勤講師 渡 邊 宏

■城跡の上に広がるにぎわいの親水空間

本計画は、東日本大震災による影響で子どもたちの屋外活動が制限を受けている状況を踏まえ、全ての市民が安全に安心して健康増進を図るための屋内市民プール整備事業です。計画地は、二本松市の霞ヶ城公園運動施設区の一角にあり、二本松城跡周辺の歴史景観地区に隣接しています。この場所に屋内市民プールを計画するにあたり、「二本松城址」を設計におけるイメージの拠りどころとして、周辺環境に調和したデザインを目指しました。

敷地環境や二本松市の想いを汲み取って、基本設計時に「組木細工のような屋根のかかる、城跡の上に広がるにぎわいの親水空間」をイメージし、スケッチを描きました。このイメージが設計から工事、竣工に至るまで関係者間で共有する強いコンセプトになり、建物が実現しました。

■周辺環境と調和する建築

高低差がある敷地形を活かして、レベルの低い敷地東側に吹抜けのプール空間（1階）を配置し、レベルの高い西側の駐車場から2階のエントランスへフラットにアプローチできる構成としました。また、不整形で複雑な地形に馴染んだ多角形の平面計画とし、周辺環境と一体感のある勾配の屋根形状としています。

外壁は透明感がありながら、内外の視線や熱負荷低減に配慮したストライプ状のスクリーンとしてデザインされており、外観は周辺歴史景観地区に配慮した風景に馴染む色彩・形状としながら、内部空間は色彩豊かなシークエンスが展開し、人々の活動があふれ出すような明るく居心地の良い魅力的な空間が広がっています。

■耐火建築物で実現した木造屋根の親水空間

構造的には、鉄骨造の外殻に木造梁の屋根を被せた「プール棟」、鉄筋コンクリート造（半地下）と鉄骨造（地上部）による架構の「エントランス棟」で構成されたハイブリッド構造としています。

規模的に耐火建築物に該当し、通常は主要構造部に木材を使用することはできませんが、全国的にも事例の少ない「耐火性能検証法」により技術的基準の適合を行うことで、プール空間の屋根梁の木造化を実現しています。

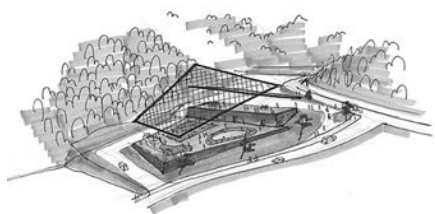
迫力ある木構造現しのプール空間は、エントランスから見渡すことができ、期待感を演出するダイナミックな空間構成となりました。組木細工にも似た天井からは木漏れ日のような光が降り注ぎ、木材の温かみを感じます。

オープンから2年が経ちますが、市民の方々からの評価も良く、地域の子どもの笑顔に貢献できたのであれば幸いです。

今回の受賞を励みに、これからも地域にかけがえのない良質な建築を創って、社会貢献したいと思います。

■計画概要

所在地	福島県二本松市郭内4丁目170番地
主要用途	水泳場
建主	二本松市
担当（統括）	江田紳輔
延床面積	3,573.73㎡
階数・構造	地上2階・鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造一部木造
耐火性能	耐火構造（耐火性能検証法）
設計期間	2014年1月～2015年2月
施工期間	2015年5月～2017年3月



コンセプトスケッチ



木造屋根のプール空間



エントランス奥・ギャラリー



北側ひろばからの外観



中央階段の吹抜け



エントランス

第35回福島県建築文化賞 優秀賞受賞

いくつもの 이슈 を建築で解く

株式会社gif

非常勤講師 高橋 岳 志

1年半程前、創建164号で“建築計画を通じてのものづくりと日大工学部のネットワークについて”と題して紹介させて頂いた郡山ヘアメイクカレッジが、第35回福島県建築文化受賞優秀賞を受賞しました。

この賞は建築主、設計者、施工者を顕彰するものですが、受賞はひとえに日大工学部のネットワークの賜物です。改めてここで皆様にお礼申し上げます。

■計画の経緯

郡山ヘアメイクカレッジは、別々に動いていたプロジェクトが一つの点で幸運にも重なりで上がった建築でした。私の理解としては、今回の受賞は、設計者として“一つの点”にまとめ上げたことが評価されたのではないかと考えています。

この学校は60年前に設立された郡山美容協会が運営する美容系専門学校で、従前の校舎は郡山市愛宕町、その前は虎丸にありましたが、今回の計画で安積町笹川、東北本線の安積永盛駅近くへの移転新築となりました。設計依頼当初は旧校舎の耐震補強相談から始まったプロジェクトでした。旧校舎は増築を重ね、計画的、施工的にも不安があり、当初は同一敷地内での建替えから検討が始まりました。しかし、同一敷地内での建替えのデメリットも大きく、別プロジェクトで動いていた合板工場跡地活用計画地に、移転新築する計画を美容協会に提案しました。それと同時に、費用負担の軽減策として、CLTを活用した先進事例として補助金が得られたことから、当初は移転新築に前向きでなかった美容協会もこの案に承諾して下さったのでした。竣工した現在は、幸いCLTの先進事例として全国から見学の問い合わせが多く、学校の広報活動にも寄与することができています。

■計画の概要

建物は、道路、線路に直交するように、長細い敷地に4つの木造建物と3つのRC造建物を数珠つなぎ状に配置しています。RC造の耐火建築物で木造建物が500㎡

以下になるように区画する事で、準耐火建築物とすることなくその他の建築物にでき、燃え代設計を採用することなく内部木構造の現し仕上げが可能となりました。その結果、CLTの杉、木造ラーメンや梁のカラマツの構造材がそのまま意匠にもなっています。木構造の現し仕上げは建方終了とともに仕上げ工事完了となるため、工期短縮にもなりました。

木造建物は、CLTを使って開放性、大空間を実現するために、木造ラーメン構造とCLT壁構造を組合せた新工法で建設されました。CLTは県産の杉材、木造ラーメン構造、梁材で使用した集成材は県産のカラマツで制作する事で、地域循環に配慮した建築を模索しました。CLTは、木造ラーメン構造に直交する壁と屋根パネルとして使用しており、最大12mとなる屋根パネルは集成材梁を地組みでCLTに取付け、合成梁とすることで垂れを抑えつつ施工性を上げ、工期短縮につなげました。

線路側に配置されたサロン風実習室の杉材縦ルーバー、東側道路側に配置された近隣住民にも開放する大空間教室の杉板横張り、二階建ての教室棟の2.25m出たCLTの軒が建物の雰囲気印象付けています。アオダモ、エゴノキなど山取りの雑木を中心とした植栽計画を含め、かつては貯木場、合板工場だったこの土地の文脈を継承しました。現在、南側敷地で計画中の施設群は、そのようなデザインソースも用いながら、豊かな地域環境となるよう計画を進めています。

■建築概要

主要用途	美容系専門学校
建築面積	1,068㎡
延床面積	1,448㎡
構 造	CLT壁構造+木造ラーメン構造, RC造
設 計	高橋岳志・エーユーエム設計共同企業体
施工期間	2016年9月～2017年3月



南東側からの外観



シャンプー台が設置された線路側のサロン風実習室

焼杉と原寸の建築の制作に携わって

建築歴史意匠研究室 清 野 弘 樹

9月10日、研究室の活動で焼杉を作りました。速水先生の「例年通り家具でも造ろうか」との提案を拒み、「それよりは焼杉と茶室を」とお願いしてのことでした。

焼杉というのは、杉板の表面を焼いたもので、家の外壁などに使われてきたものです。初めての作業でしたが、慣れてくると早いもので、わずか2時間で27枚が焼き上がりました。物凄い炎と煙に包まれて、まるで燻製にでもなったかのような感じでした。

焼杉の後は茶室です。施工は学生が行い、私は模型から材料の調達・加工・組立の全ての工程に携わりました。

模型ができた時の印象は「ずんぐりむっくり」で、板を穴だらけにしたためか「ひ弱そう」に見えました。そ

のため「原寸は大丈夫かな」と不安に思いながら、そして、宙を舞う炭の粉で全員が顔を真っ黒にしながら、作業すること7日、原寸の茶室が立ち上がったのを見た時は、短いながらも苦勞が報われた気がしました。それと同時に驚いたのは、ひ弱な板でできた壁がびくともしないこと、そして、不思議とずんぐりむっくり感がないことでした。

こうして完成した茶室は、10月27～28日の北桜祭で展示されました。振り返って、まさか学生のうちに原寸の建築を造るとは思いもしませんでしたし、板の裏表を間違えて加工するという冷や汗ものの出来事もありましたが、貴重な経験となりました。

茶席「壺中の天体」

建築歴史意匠研究室 岩 花 建 吾

ゼミ活動について4年生の間に話し合いを重ねた結果、茶室を作ることになった。その制作にあたり私たちは、①ゼミ内コンペで案を決める、②北桜祭で展示する、③学外のコンペに提出する、を目標に据えた。

ゼミ内コンペの審査会では、私の案が選ばれ、そこに、速水先生の茶室、建築研究会と合同のマルシェ、模擬店を加え、小澤巧さんを中心に全ての企画が動き出した。

茶室の設計にあたり私は、参考にと何冊かの本を手にした。図面や写真を頼りに空間を想像すると、そこには削ぎ落とされた幾何学的な美しさの中にふんわりと広がる豊かさが存在するように思えた。だが、北桜祭でマルシェとつながる場所に置かれるものとして、それらはやや閉じすぎており、参照することはできない。どうにか豊かな内部を築きながら、外部とも関わりを持つことはできないかと考えた末、“茶室”のエレメントを解体しな

がら、傘のように外部に開く“茶席”に近づければ、その難題に応えられるのではないかと思うに至った。

9月末、スタディを終え施工に入った。事前に焼杉を通して、テクスチャの持つ魅力に気づき、表面にはこだわることにした。壁は漆喰を、床は漆に似たカシューを塗り、足はバーナーで炙って仕上げた。

どれもそれなりに手間がかかった。特に苦戦したのは漆喰だった。市販のキットを使ったが、通常の倍ほどの量が必要となった。後日、薄塗のできない素人施工にありがちなことと聞いた。ただ、面白い発見もあった。漆喰の仕上がりには塗り手の性格が出たことである。作品の出来栄としては好ましくないムラも、私にはむしろうれしかった。最後に、一緒に活動して下さった皆様、本当にありがとうございました。



焼杉制作



北桜祭で展示された
茶室「ランタンハウス」



茶席「壺中の天体」と作業に参加した
研究室のみんな

学生の活躍紹介

宅地建物取引士に合格し、宅建登録実務講習を修了した渡邊いくみにその経験談を寄稿いただきました。

また、三協アルミ主催「未来のとびらコンテスト〈大学生版〉第4回学生建築デザインコンペ2018」において、野口樹君の作品「Urban Mountain」が特別賞を受賞しました。ここに記して祝すとともに執筆いただきました。

資格試験学習から得た学び

4年次生 渡 邊 いくみ

宅建取得を目指した理由としては、就職活動に有利であり、持っていて損はないという単純なものでした。工学部で開催されている、グループ学習で進める毎週土曜日の宅建講座は、申込時は多くの仲間とともに資格取得を目指していますが、日が経つにつれて少しずつ受講者が少なくなっていくという状況でした。こうした中、先生方は本試験への対策など丁寧に教えてくださり、私にとっては定期的に過ごす居心地の良い時間でした。目標達成のため継続して必死に打ち込むことは、時には困難であるとともに快感となり、今となっては合格に向けて勉強をしてきた日々が良い思い出として残っています。昨年の試験では、あともう少しというところで残念な結果となってしまったので、今年は学習法はそのままに、以前まで勉強のため削っていた人と接する時間を、今年はできる限り楽しみ、日々の日常生活を勉強以外でより充実させることにしました。合格を果たした時は努力が報われ嬉しかったです。

また、取引士として速やかに業務できるように効率的な資格取得のため、1月に開催された宅建実務講習に参加

しました。就職活動に有利という理由で始めた学習でしたが、資格取得の学びの過程で自分の将来への考え方が徐々に変化し、卒業後、私は1年間語学留学をする決断に至りました。就職活動も進め内定を頂いた企業もありましたが、未知の世界に出て日々新しいものをどんどん吸収している自分が想像できた時に、圧倒的な価値を感じました。留学先では苦勞することもたくさんあると思いますが、資格試験学習においてコツコツと積み重ねてきた努力を留学先でも自信に繋げて、今までにない程に充実させたものにしたいです。このことは、卒業研究を進める中でも確信しました。苦勞しながらも好奇心と向上心をもって臨み、地道に続ける先に大きな成果として卒業論文が完成したこと、発表においても、発表時間内に収めるための努力とわかりやすく伝えるための配慮を忘れずに取り組み達成感を得たこと、コツコツと積み重ねた努力の先に自らの成長を感じました。正直、帰国後の就職活動についてあまり考えてはならず、宅建士の資格が活かせる建築や不動産関係等の道は、一つの選択肢として残しておきたいと思っています。変わらず支えてくれる家族に感謝を忘れず、4月からの生活では、日本と異なる環境で多くの人と関わることで、知識や教養を蓄え自身を成長させていきたいと感じています。

デザインコンペを通じて経験したこと

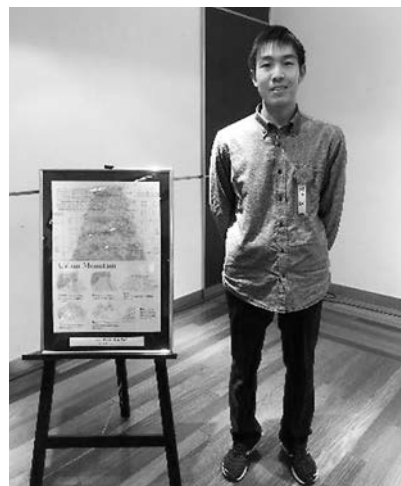
3年次生 野 口 樹

私がこのコンペに挑戦したのは、建築を勉強しだした頃からSANNA（妹島和世＋西澤立衛）の新しいことに挑戦している設計が好きで、西澤立衛先生に自分の考えやデザインを見て頂き、お話が聞ける絶好のチャンスだと思ったからです。

私が提案した「Urban Mountain」は、未来の生活に向けて都市でも冷暖房などを設備に頼らず、植物の力で快適に過ごせる建築です。また、「山」を盛り込んだのは、誰でも気軽に立ち寄れ、新しい出会いやコミュニティを形成する場つくることを意図しました。「ずっといたくなる住まい」という課題だったので、住宅の持つ日常の安定したプライベートな空間と、誰でも登れる山という変化に富んだパブリックな空間を複合させた提案になっています。

提案内容は、著書等に記されている審査員の先生方の問題意識を想像し、自分なりに展開したものです。結果的に、考え方や着想は、審査員の先生方から一定の評価を得られましたが、質疑応答では、「建築と緑の関係性」や「空間としての魅力」など、具体性が弱い点が課題となりました。自分では、手書き表現や発表なども頑張ったつもりですが、他の作品の内容やプレゼンのレベルがとても高く、自分に足りない部分も確認でき大変貴重な経験でした。

審査の翌日には、金沢21世紀美術館をコンペ審査員長かつ設計者の西澤立衛先生による案内で見学する、受賞ツアーがありました。隣接する兼六園との関係性や空間の考え方などの説明を頂いて、建築計画や設計演習の授業でも学修した、周辺環境を丁寧に読み解き3次元空間を意識して計画・設計を考える重要性を実感でき、こちらも非常に貴重な経験でした。今回のコンペで経験したことを、今後の自分の様々な活動に活かしていきたいと思います。



野口樹君と受賞作品



金沢21世紀美術館内で西澤立衛先生の説明に聞き入る見学者達

平成30年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会

日時：平成31年 2 月13日(火) 場所：70号館 6 階7066教室

1. 東北地方のコミュニティライフに関する研究 ―都市公園の利活用と避難生活の環境移行を痛して―
相田 快 (指導：市岡 綾子 専任講師)
2. 銅板挿入ドリフトピン接合によるCLTパネルの実験的研究
五十嵐 喜翔 (指導：野内 英治 准教授)
3. 都道府県主催の建築賞の受賞作品の傾向に関する研究 ―神奈川県と福島県を対象とした分析―
桐井 翼 (指導：浦部 智義 教授)
4. 歴史的大規模木造宿泊施設を対象とした火災安全性の研究
栗原 操生 (指導：森山 修治 教授)
5. 東日本大震災後に建設された復興拠点施設に関する研究
―葛尾村復興交流館の計画と運営に関する調査分析―
作山 和輝 (指導：浦部 智義 教授)
6. 地歌舞伎の公演時の空間特性に関する研究 ―東北地方に現存する地歌舞伎を対象とした調査分析―
武田 健大 (指導：浦部 智義 教授)
7. ポリマーセメントモルタルの性能評価のための各種試験条件及び調合因子としてのポリマー混入率の検討
西田 電 (指導：出村 克宣 教授)
8. 高齢者施設の籠城区画による水平避難有効検証に関する研究
諸岡 志織 (指導：森山 修治 教授)
9. 1 質点系模型を用いた測定コードの影響に関する研究
渡邊 拓哉 (指導：千葉 正裕 教授)
10. 応急仮設住宅の再利用の実態に関する研究
―東日本大震災後に福島県内に建設された仮設住宅を対象として―
渡部 昌治 (指導：浦部 智義 教授)

平成30年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会

日時：平成31年 2 月 6 日(火) 場所：70号館 1 階7014教室 (五十嵐ホール)

1. 耐震壁の設置状況が建物の変形・応力に与える影響について
海津 稜希 (指導：千葉 正裕 教授・日比野 巧 助教)
2. FEMによるRC部材の弾塑性解析に関する基礎的研究
堀 佳祐・生畑目 雄太・鈴木 一真 (指導：浅里 和茂 教授・堀川 真之 助教)
3. 銅板挿入ドリフトピン接合によるCLTパネルのせん断耐力に関する研究
赤羽 聖明・川田 寛人・菅野 大輔・菅野 信 (指導：野内 英治 准教授)
4. 数値的折り紙作成法を用いた空間構造形態創生の研究
荒川 伶央 (指導：Buntara S. Gan 教授)
5. ポーラスコンクリートの性能評価
武田 昌也・工藤 陸良・田中 貴文 (指導：出村 克宣 教授・齋藤 俊克 専任講師)
6. サンドイッチパネルの屋外実験による実大規模及び中規模試験の比較検討
眞尾駿太郎 (指導：Sanjay PAREEK 准教授)
7. 重要伝統的建造物群保存地区における火災安全性の研究
―秋田県増田町を対象とした延焼シミュレーション―
木村 優 (指導：森山 修治 教授)
8. 風車ナセル・タワーの振動解析
高橋 厚太 (指導：濱田 幸雄 教授・宮崎 渉 助教)
9. 民間組織のまちづくり活動の実態 ―福島県石川町を拠点とする「福の島を考える会」を対象として―
遠藤 義朋 (指導：浦部 智義 教授)
10. 東日本大震災前後の福島県で採られた建築設計者選定方式に関する研究
後藤 寛尚 (指導：速水 清孝 教授)
11. 第二師団歩兵第六十五聯隊 ―会津のあゆみ―
佐藤 有貴子 (指導：山岸 吉弘 専任講師)
12. 震災避難者の居住環境における復興公営住宅に関する研究 ―環境移行とコミュニティ形成―
渡邊 いくみ (指導：市岡 綾子 専任講師)

学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

・山田義文, 「重度肢体不自由者の住環境に関する研究 ―戸建住宅を改修した住まいにおける有効性と課題―」, 日本建築学会住宅系研究報告会論文集, vol. 13, pp. 71-78, Dec 2018

■岡田明也君(出村・齋藤研H29年度修士修了)は, 11月14日, 2018年度日本建築学会大会(東北)学術講演会における研究発表「沖縄県の沿岸部に25年間屋外暴露したRC構造物外装仕上げ模擬供試体の防せい性」に対して, 材料施工部門若手優秀発表を受賞した。

■市岡専任講師と市岡研究室は, 白河市田町景観まちづくり協議会より景観協定締結活動支援を依頼され, 11月15日, 1月31日, 3月8日に景観まちづくりワークショップが開催された。

■浦部教授は, 12月1日, 大熊町福祉施設整備公募型プロポーザルの審査員を委嘱された。

■12月13日, 三協アルミ主催第4回学生建築デザインコンペ「未来のとびらコンテスト《大学生版》」において, 野口樹君(浦部研・3年)が特別賞を受賞した(p5. 参照のこと)。

■12月15日, 市岡専任講師は, 福島県景観アドバイザーとして, 平成30年度いわき市景観セミナーの講師を務め, 「歩きたくなる温泉地の景観とは」と題して講演された。

■東北6県+新潟の建築学生を対象としたデザインコンペ「TOHOKU + N YOUTH DESIGN AWARD 2018」において, 藤野純也君(浦部研・M1)・寺沢鳳成君(速水研・4年)が佳作に入選した。

■公益社団法人商業施設技術団体連合会主催『第16回 主張する「みせ」学生デザインコンペ』において, 藤野

純也君(浦部研・M1)が奨励賞を受賞した。

■山田専任講師は, 公益社団法人日本建築士会連合会機関紙「建築士」平成31年1月号に『「潜在的なバリア」に気づく意義』, 平成31年2月号に『建築学科で学ぶことの意義』と題して寄稿された。

■1月23日, 平成30年度第35回福島県建築文化賞の表彰式が行われ, 渡邊宏非常勤講師が設計された二本松城山市民プール(二本松市), 高橋岳志・濱尾博文非常勤講師が設計された郡山ヘアメイクカレッジ(郡山市)がいずれも優秀賞を受賞された(p2, p3 参照のこと)。

教室ニュース

■1月24日, 廣田教授は, 西郷村より道の駅基本計画策定委員会の委員を委嘱され, 委員長に選出された。

■1月30日, 廣田教授は, 西郷村より西郷村空家対策審議会の委員を委嘱され, 会長に選出された。

■1月31日, 森山教授は, 会津若松市立小中学校空調設備整備事業プロポーザル選定委員会の委員を委嘱された。

■浦部研究室は, 2月9日, 福島県庁で行われた「大学の力を活用した集落復興支援事業」の報告を行った。

■浦部教授と浦部研究室が関わった, 葛尾村復興交流館の「ロハス蔵」・「ロハス橋」・「ロハスガーデン」が2月18日にオープンした。

■2月19日, 廣田教授は, 西郷村より西郷村拠点づくりプロジェクトプロポーザル審査委員会の委員を委嘱され, 委員長に選出された。

■2月21日, 森山教授は, 公益社団法人日本プールアメニティ協会主催, 第174回プール衛生管理者講習会において, 「プールの設計と維持管理」と題して講義をされた。

■2月25日に日経BP社より出版された, 日本大学工学部・ロハス工学編集委員会編「ロハス工学」に, 建築学科から出村教授・浦部教授・森山教授・齋藤専任講師・山岸専任講師が執筆した。

■3月2日, 岩花建吾君(速水研・4年)は, せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦でセミファイナル進出となる30選に選定された。

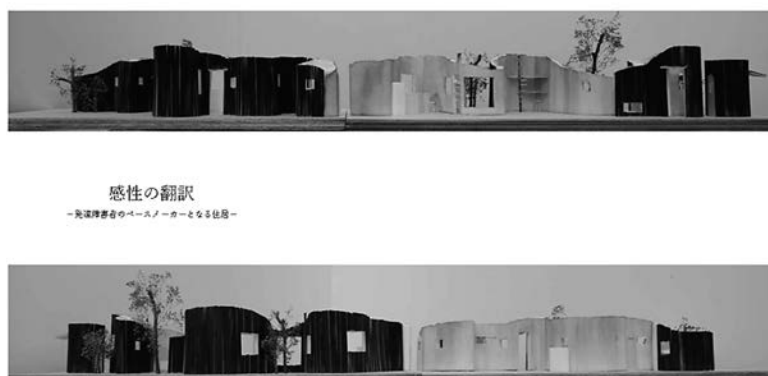
■3月13日, 森山教授は, 一般財団法人日本建築学会主催講習会「建築火災安全設計の考え方と基礎知識」において, 「早期発見・早期避難のためのシステム」および「消防活動の確保」と題して講義された。

■白河市は, 市岡専任講師と市岡研究室・速水研究室の有志が支援した今年度の景観学習活動を, 「まちのすがたNo.2〜景観学習で学んだこと〜」としてまとめHPに掲載された。

お知らせ: 1999年度以降に発行した創建の合本2冊, その4(101~132号), その5(133~166号)を作成しました。工学部図書館等で閲覧ください。



藤野君の作品



岩花君の作品

平成30年度 卒業式・修了式における表彰者

平成31年 3月25日

◇齋藤 賞◇

修士論文「ポリマーセメントモルタルの性能評価のための各種試験条件及び調合因子としての
ポリマー混入率の検討」

西田 電（指導：出村克宣 教授・齋藤俊克 専任講師）

◇北 桜 賞◇

修士論文「歴史的な大規模木造宿泊施設を対象とした火災安全性の研究」

栗原操生（指導：森山修治 教授）

◇桜 建 賞◇

卒業設計「地図にない建築 ー内海を漂う方舟ー」

兵頭秀子（指導：浦部智義 教授）

卒業論文「鋼板挿入ドリフトピン接合によるCLTパネルのせん断耐力に関する研究」

赤羽聖明・川田寛人・菅野 信・菅野大輔（指導：野内英治 准教授）

卒業論文「ポーラスコンクリートの性能評価

ー粗骨材岩種が圧縮強度・静弾性係数に及ぼす影響、並びに各種静弾性係数推定式の適用性ー」

武田昌也・工藤陸良（指導：出村克宣 教授・齋藤俊克 専任講師）

卒業論文「東日本大震災前後の福島県で採られた建築設計者選定方式に関する研究」

後藤寛尚（指導：速水清孝 教授）

卒業論文「第二師団歩兵第六十五聯隊 ー会津のあゆみー」

佐藤友貴子（指導：山岸吉弘 専任講師）

◇優 等 賞◇ 安藤紗弥加, 荒木千春, 鈴木一真

◇工学部長賞◇

学術・文化部門：安東大毅 第22回JIA東北建築学生賞（公益社団法人日本建築家協会東北支部主催）

最優秀賞受賞 作品名「身体を澄ます建築」

学術・文化部門：荒木千春 第22回JIA東北建築学生賞（公益社団法人日本建築家協会東北支部主催）

奨励賞 東北専門新聞連盟賞受賞 作品名「まちを編む」

学術・文化部門：寺沢鳳成 TOHOKU + N YOUTH DESIGN AWARD 2017(シェルホームデザイン 株式会社ホリエ主催)

佳作受賞 作品名「Velarium ー再建の幕明けを告げるー」

TOHOKU + N YOUTH DESIGN AWARD 2018 佳作受賞

作品名「組重 ー浴衣を羽織り、髪を結うようにー」

◇父 母 会 賞◇ 寺沢鳳成, 津田祥吾

平成30年度卒業設計展およびコンクール・展示会等出展作品

本年度の卒業設計展は、2019年2月7日（木）から9日（土）の3日間にわたって70号館1階7012・7013教室にて開催され、35作品が出展された。出席者からは、想像力豊かな作品が多く、見応えのある卒業設計展であったとの感想が多く寄せられた。果敢に挑戦した学生諸君とその制作過程を支えた皆さんに心より感謝したい。

2月12日（火）～14日（木）の3日間、郡山駅前ビッグアイ6階を会場に、外部卒業設計展等への出展作品を含む全8作品による学外での卒業設計作品展を開催した。ある来場者から、何れの作品も素晴らしいが、震災の祈りに向き合う作品に心打たれたとのメッセージを頂いた。学外展示の意義を改めて感じたエピソードとして記しておきたい。



外部卒業設計展示会・学外展示会等出展作品一覧

■日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」

■第3回日本建築家協会東北支部福島地域会賞

荒木千春（指導：浦部智義 教授）

作品名：さるくが育むまちの日常 ー路空間の涵養ー

■日本建築家協会「全国学生卒業設計コンクール2019」

兵頭秀子（指導：浦部智義 教授）

作品名：地図にない建築 ー内海を漂う方舟ー

■レモン画翠「第41回学生設計優秀作品展」

杉山夏菜（指導：渡部和生 特任教授）

作品名：YOKOHAMA Kids Museum
ーアートからなる子どもの遊び場ー

■近代建築「卒業制作2019」

仰木啓大（指導：浦部智義 教授）

作品名：はじまりの塔 ー日常性バイアスー

■日本インテリア学会「第25回卒業作品展」

牧野美里（指導：市岡綾子 専任講師）

作品名：サイノカワラ ー記憶の遡行ー

■学外作品展出展作品（上記作品の他）

安藤紗弥加（指導：浦部智義 教授）

作品名：湖展 ー水と向き合う建築ー

小野菜津実（指導：浦部智義 教授）

作品名：星峠 ー棚と小屋がつくる未来ー

鈴木宏明（指導：浦部智義 教授）

作品名：ファンクションルーフ

ー雪を旨とすべしー